

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.267

特集：世界とつながる研修

距離を越え、国境を越えて。



日本_ヤマウチ



日本_サガ



日本_ハヤシ



アルゼンチン_トマス



東ティモール_グラシア



日本_シマダ



ナイジェリア_ケーシー



ザンビア_フィル



フィリピン_アミ



スーダン_アルハダリ



コートジボワール_マリ



ガーナ_キボ

コロナの影響下でも、PREXは世界中の人とオンラインでつながっています。

＊外務省「ジャパンSDGsアクションプラットフォーム」

このプラットフォームは、SDGsに関連した情報を社会に幅広く紹介することを目的に、企業、自治体、NGO/NPO、教育機関等の取り組みを掲載しています。PREXも、その中で紹介されています。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>



Japan.
Committed
to the SDGs

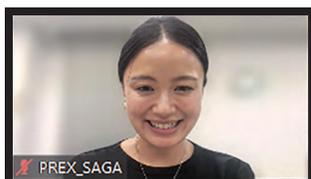
画面の向こうに、

2021年8月に実施したオンラインでの研修には、フィリピン、東ティモール、アルゼンチン、ナイジェリア、スーダン、ザンビア、コートジボワール、タンザニアの中小企業振興に携わる行政官や金融機関職員が参加。本来は、訪日での研修ですが、コロナウィルス感染拡大の影響で今年度も「遠隔研修」として実施しました。



研修に参加した皆さんと共に。

PREX山内です。PREXに入局して毎年この研修を担当しています。オンラインでも、少しでも互いの国を知り、意見交換ができる「研修」を実施できるよう、試行錯誤しています。



研修員には何もかもが初体験。

PREX佐賀です。研修員同士で情報共有ができるよう、オンラインセッション*を7回行いました。Zoomのブレイクアウトルームを使って小グループに分かれた意見交換の時間も取り入れています。



日本を身近に感じてもらいたい。

PREX島田です。研修員が来日し日本を肌で感じてもらうことはできませんが、なんとか日本を知ってもらおうと「日本の歴史・文化」を知るオンラインセッションにチャレンジしました。評価は上々でした。



アルゼンチンから、早朝の参加。

アルゼンチンから参加のトマスさんは、時差が大きくオンラインセッションでは早朝（現地時間）からの参加になることもありました。それにもかかわらず、業務都合での1回の欠席を除き、熱心に受講しました。



大切なのは、人材育成。

コートジボワールのマリーさんは、中小企業の資金調達と経営者の経営力不足の課題を解決するために、中小企業の能力開発の研修実施や報奨制度づくりを計画しました。



盛りだくさんのアイデアを実行に。

ガーナのキポさんは、オンラインセッションでもよく質問をし、発表役を担うなど積極的でした。中小企業の資金調達や支援機関の連携不足を課題にあげ、改善のための計画を作成しました。



金融機関や専門家をつなぐ。

ナイジェリアのケーシーさんは、中小企業の活性化にむけて、金融機関や専門家をつなぐサポートやクラウドファンディングの計画をしています。これから着実に計画を進めていくことが期待されます。

※オンラインセッション・・・研修員全員が同じ時間帯にオンラインで集合し、PCやスマホの画面通じて講師や企業経営者との意見交換、研修員間のディスカッションを行います。「講義」はオンデマンド教材を視聴して各自が自習します。

成長の手応え。



ネットワークが不安定な日も・・・。

フィリピンの経済産業省のアミさんは、出張と重なりネットワークが不安定な日も・・・。中小企業支援プログラムの確立へ向け5つの計画を作成。研修中に第1ステップを実行し周囲を驚かせました。



日本の支援機関との交流を。

フィリピン中央銀行のメイさんは、アクションプランでは日本の中小企業の支援機関との交流の実現を計画してくれました。コースリーダーの林先生のアドバイスでより実現性の高い計画になりました。



スーダンが取り組むべきなのは・・・。

スーダン中央銀行のアルハダリさんは、日本とスーダンを比較してスーダンの中小企業を支援する体制の課題を発見し、それらを丁寧にまとめました。



企業の人材育成と創業支援。

東ティモールのグラシアさんは、講義では複数の質問を寄せ、オンラインセッションでも積極的に意見交換に参加するなど常に前向きな姿勢で受講しました。



行政官とはひと味違う民間目線。

ザンビア商工会議所のフィルさんは、業務多忙により履修時間の確保に大変苦労した様子。アクションプランは、15項目もの計画を作り、その内容も多岐にわたりました。



オブザーバーでも積極的。

タンザニアのAAさんとコートダジュールのビリーさんは、「オブザーバー」としての参加でしたが、オンラインセッションにおいても積極的に意見交換に参加するなど常に前向きな姿勢で参加しました。



皆さんのバイタリティ、真摯さに感服。

コースリーダーの大阪商業大学 林です。研修員の皆さんには、日本の状況を知って、自国に合った中小企業支援の形を考えてもらいたいと願っています。研修員の皆さん、こんな時こそ、自分たちが支援する現場を見に行ってください！

研修は9年で

林先生に9年間で
振り返って
いただきました！

PREX
山内

大阪商業大学
総合経営学部 経営学科主任・教授
林 幸治 氏

対談:2021年度 JICA中小企業振興のための経営強化(金融アクセス)研修を振り返って

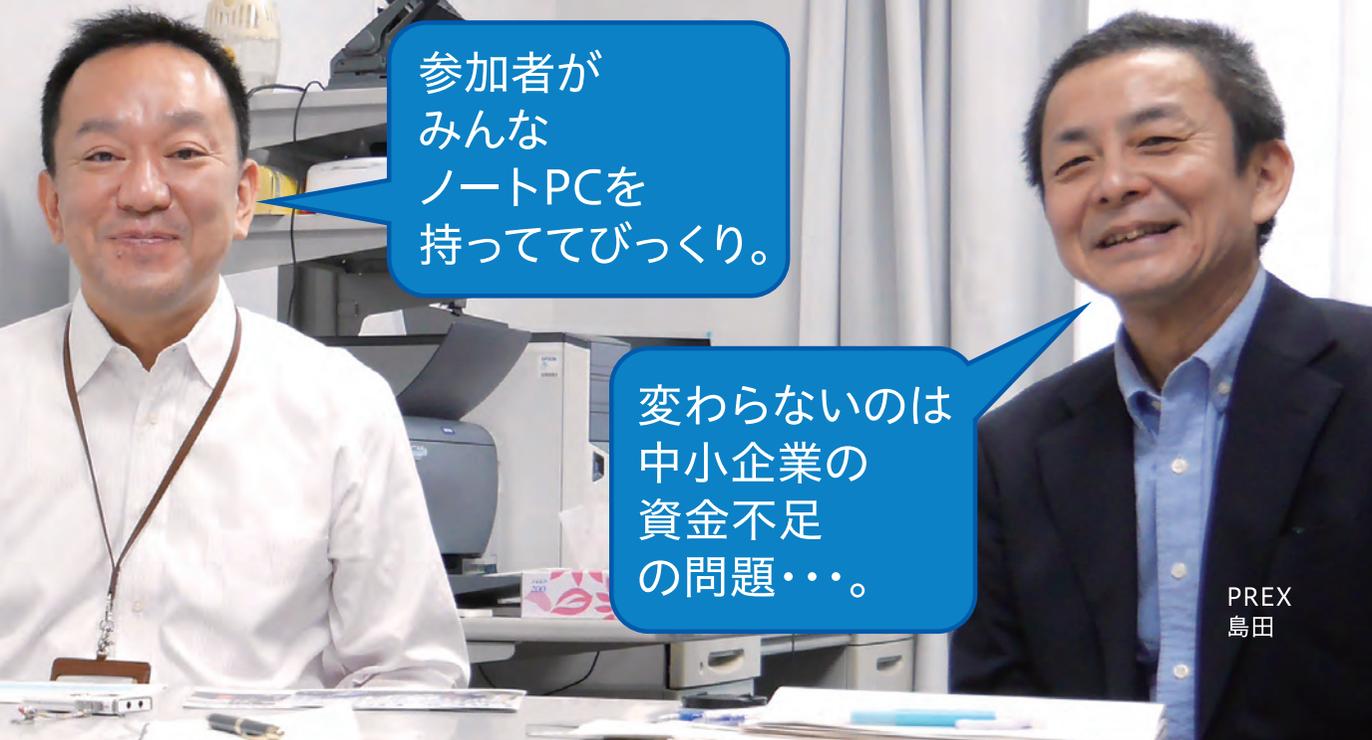
島田：コロナの中、オンラインで世界の研修員にご指導いただきありがとうございました。林先生には、2012年からJICA課題別研修「中小企業振興のための金融・技術支援」や「中小企業振興のための経営強化(金融アクセス)」などを指導いただきました。これまでを振り返って、お話をうかがいたいと思います。このテーマの研修は、9年継続されていて、47か国・地域から163名が参加しています。思い出深かったエピソードはありますか？

林先生：9年の移り変わりを考えると、2012年頃はフィリピン、タイ、ベトナムなどアジアからの参加者が多かったですね。それがだんだん西の方の国々、例えば、中東やアフリカからの研修参加が増えてきました。アジアの国々が成長したのだと実感しています。それに、最近の研修員の皆さんは、各自、ノートパソコンを持参されますよね。これも、当初は考えられなかったことです。この研修でお伝えしていたのは、日本の中小企業振興のための制度についてですが、「信用保証制度」は、2012年頃は、どの研修参加者も「自国にない」状況でしたが、その後チリ、アルゼンチン、インド、フィリピンなど、「自国にもある」という国が増えてきている印象です。

山内：研修員からは、毎回「信用保証制度はとても参考になった。自分の国でも導入したい」という声を聞くので、その研修員が直接かかわってなくても、どこかで研修の成果が形になっていると嬉しいですね。

島田：コロンビアの商工会議所からの研修員が、帰国後中小企業診断士制度を創設したとか、ナイジェリアの商工会議所の研修員が中小企業支援のワンストップセンターを作ったとか、帰国後の活躍の知らせがちらほらあります。コロナ禍で、世界中の国々が大変な状況かもしれませんが、だからこそ、この研修を受けた中小企業を支援する立場の帰国研修員の皆さんには、「現場」を見に行き、自分たちにあった中小企業支援策を立ててほしいですね。

どう変わったか？



参加者が
みんな
ノートPCを
持っててびっくり。

変わらないのは
中小企業の
資金不足
の問題…。

PREX
島田

林先生：この9年間、研修員の悩みで、変わらないのは、自国の中小企業の資金不足です。研修では、制度やシステム、教育の整備が必要ということを伝えていますが、「どうしたら日本から支援が受けられるのか」という質問は、最後までありましたね。とにかく、私たちが研修を通じて一貫してお伝えしたかったのは、「世界には、それぞれの国の文化や考え方があり、それぞれに良さがある。日本はこんな状況か、ということを知り、ヒントにもらえるのがいい」ということでした。

島田：林先生がお考えになる「世界に伝えたい日本の魅力」はどんなことだとお感じですか？

林先生：「中小企業」が日本の強みだと思います。日本の企業は、99%以上が中小企業。まさに、日本の経済を支えているのは、中小企業です。中小企業の頑張りがあってこそ日本の経済が成り立っています。中小企業の技術力が高いからこそ、日本の商品は、性能がよく、評価を得ています。コロナでも頑張っている企業が、この東大阪にも、たくさんありますよ。

山内：研修員が日本に来てくれていると、バスに乗って支援機関や企業を訪問させていただきます。「ここが大阪の中小企業が集まる東大阪ですよ」と説明しながら、住宅地の中にある町工場に到着します。社員の皆さんに迎えてもらい、実際に工場の中を歩いて社長さんにお話を聞く。そういう空気感から、日本の中小企業の魅力を感じてもらってこそ、共感や感動があると思っています。

林先生：そうですね。やはり研修に参加される方には、日本に来ていただいて日本ファンになってもらいたいです。私自身は、世界の中小企業支援に携わる方々のバイタリティ、真摯さに、日本にはない活気を感じ、教えていただいた9年間でした。

帰国研修員の皆さん、コロナ禍ですが、頑張ってください。応援しています。

私が大切にしたい国。

今回は、高山職員がメキシコを紹介します。



写真:ストールと太陽と月の焼き物

映画『リメンバー・ミー』をご存じですか？

PREX職員の国紹介/メキシコ

大切な国、メキシコ。

Día de Muertos(死者の日)は、毎年11月1日と2日、死者を偲び感謝し、生きる喜びを分かち合うことを目的として祝うメキシコの伝統文化です。

2017年11月に公開された映画『COCO(邦題:リメンバー・ミー)』で描かれ、ご覧になった方も多いかもかもしれません。

初めての出張の時、メキシコシティへの着陸は夜でした。急旋回に驚いて窓の外を見ると、眼下に果てしなく広がる夜景……。

まさに『リメンバー・ミー』を彩る温かなオレンジ色に包まれ、その灯りとともに、たくさんの人が生きていることを感じ、深い感動を覚えました。

メキシコ対象の地域産業振興研修の担当やメキシコでの研修・フォローアップ事業およびニーズ調査などを通じ、これまでたくさんのご縁があったメキシコ。私の大好きな国です。

その出張中、南部のオアハカ州で出会ったカラフルな綿のストールは、長年愛用しています。太陽と月が組み合わさった焼き物も、ずっと手元に置いておきたい一品です。

いつかまた、今度は家族とともに訪れたい国、メキシコ。私にとって大切な国です。

(国際交流部 高山)

私の中で『行動』が『考動』に変わった。



SDGsについて発信しています。

PREXのSDGs/関西大学SDGsパートナー

家の蛇口から水が出ない地域に住む人たちは、どこから水を汲むでしょうか？水の問題は遠い国だけの問題でしょうか。日本人の私たちは考える必要がないと思いますか？

わたしはJICA海外協力隊としてアフリカのエチオピアで2年間、井戸の水に設置するポンプに関わる活動をしていました。協力隊の活動を終えて日本に帰国後、PREXに就職しましたが、ご縁があって母校の関西大学の活動に携わらせていただき、国際協力やSDGsに関心のある学生を対象に私の協力隊の経験やPREXの仕事について紹介しています。今年度、PREXは、「関西大学SDGsパートナー」として「KANDAI×HOUSEI SDGs WEEKs」のイベントの一環でワークショップを開催しました。テーマは、「日本で働く外国人が暮らしやすくなるためにできること」。学生、教授、関大職員に参加いただき、様々な意見が飛び交いました。

大学を卒業して10年がたちますが、こうしてまた母校に携わることができて、とても嬉しく思っています。また、学生の貴重な意見を聞く機会にもなり、私も一緒に勉強させてもらっています。

私が学生の頃、国際協力の仕事に興味をもって様々な人の話を聞いていたように、次は私が話をする立場となって、少しでも学生の役に立てたらと積極的に参加しています。今後も「関西大学SDGsパートナー」として協力し合いながら、様々な活動ができればと考えています。

そして一人一人が日本でできることを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

(国際交流部 佐賀)

NEWS & TOPICS

昨年末にコロナが収束しかけてホッとしていたところ、変異したオミクロン株が広がり、またまたまん延防止・・・しばらくはオンライン生活が続くそうです。でもそんなことにめげてはいられません。オンラインでのコミュニケーションに研修員も私たちPREXも随分と慣れました。引き続き、積極的に世界中とつながっていきます。PREXへのお問い合わせやご意見、「PREX NOW」への意見・感想をお待ちしています。E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

2年ぶりのリアル開催！ 立命館大学国際関係研究科フィールドツアー

立命館大学国際関係研究科でProfessional Trainingを受講している留学生を対象に、京都府綾部市にて「行政と民間企業の地方創生の取組」をテーマにフィールドツアーを実施しました。緊急事態宣言が続き、一時は実現が危ぶまれた本研修ですが、9月末で宣言が解除され、その後のコロナの状況が落ち着いていたことから、2年ぶりに、リアル開催の研修を実現しました。とはいえ従来とは違って日帰りでの実施のため、1日で3つのカリキュラムをこなすハードなフィールドツアーになりました。(島田)



京都府指定無形文化財の「黒谷和紙」体験館を訪問した立命館大学の留学生の皆さん

- ・実施日:2021年11月26日
- ・参加者:留学生17名
- ・参加国:ガーナ、カンボジア、キルギス、ザンビア、ネパール、ブータン、フランス、ミャンマー、ラオス(9カ国)

★最新の研修レポートはPREXのウェブサイトで紹介しています。



上本町SDGs大学、続々 開催しています！詳細はこちらから→



第10回上本町SDGs大学は、11/18「アジア人女性が輝く食堂に学ぶ『食』から広がる共生社会」をテーマに黒田尚子さんに登壇いただきました。(神戸アジアン食堂バル SALA店長)

e-toco #16

ヒラケ！グローバル関西

留学生と起こすイノベーション
SUCCESS=Osaka 事例編

ゲスト
関西大学 国際部
SUCCESS=Osaka
チーフコーディネーター
吉田 圭輔さん

2022年1月12日 (水)
12:15~12:45(30分)

関西の国際化を支えるダイバーシティの実現を目指します。
公益財団法人太平洋人材交流センター(Pacific Resource Exchange center)

PREXオンラインカフェ e-toco(えーとこ)お楽しみください。

PREXのビジョンを達成するため、「関西の国際化を支えるダイバーシティの実現」をめざして、コロナ禍で直接会えなくても、協力・共働・共創・つながることができるよう、定期的にfacebookライブ配信をしています。これまでの放送は、PREXのYouTubeチャンネルでご覧いただけます。



SDGsダイアリーで #今日からできる SDGsしませんか？



SDGsを知って、活動することを目指して作られた「SDGsダイアリー」2022年度版(2022年4月~2023年3月)が販売中です。

ページをめくると、SDGsの17のゴールについて、またビジネスを通して実現しようとしている企業の事例などが満載です。皆さんの毎日の活動の中で「今日からできる」SDGs、始めませんか？詳細はPREXウェブサイトで紹介しています。(瀬戸口)



PREX NOW第267号(2022年2月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 謙
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー